

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200470		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホームおおつ		
所在地	徳島県鳴門市大津町大代字戎野472番地		
自己評価作成日	平成25年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である“地域社会に開かれた信頼され愛される施設を目指す”を全職員が意識統一のもと、住み慣れた地域で入居前にできる限り近い生活を送っていただけることを目標に馴染みの理美容院や買い物先を利用できるよう努めている。また運営推進会議には地元の民生委員や老人会の方々へ参加を積極的に呼びかけ自施設の取り組みに対して理解・協力を得られるよう努めている。認知症に対する知識・技術の向上を常に図り、施設内外の研修に積極的に参加し、よりそれぞれの入居者様に適した対応ができるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入ったレンコン畑の広がる平地に、介護老人福祉施設併設型で立地している。事業所は、併設施設の3階に位置しており、共用空間から居室までオールバリアフリーで、明るく清潔に保持されている。法人理念でもある“地域社会に開かれた信頼される愛される施設を目指す”を全職員が実践しており、家庭的な雰囲気のなか、利用者に寄り添ったケアに努めている。また、事業所は、利用者の生活歴や趣味の継続を大切に考え、一人ひとりの希望に応じた、馴染みある環境づくりに努めている。地域との交流にも積極的であり、事業所の緊急時の連絡網には老人会も含まれており、協体制の構築もできている。事業所を運営する法人グループには、さまざまな介護サービス施設があり、毎月、どこかの施設で行事が開催されており、利用者も相互に参加しあっている。職員も他介護サービスとの連携が取りやすく、さまざまな介護ケアを学べる組織体制がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他、グループホームおおつ独自の理念を掲げ、毎日申し送り時に唱和し、職員全員で実践している。	事業所は、管理者を含む全職員で、朝礼時に法人理念と事業所理念を唱和して共有を図っている。また、新人職員も新人研修会で理念を学んでいる。事務所内の見やすい場所に、理念を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散髪等は地元の店を利用し、地域との関わりをもつ機会を設けている。また地元の小学校等の行事に招待、また来苑されたりして交流を図っている。	事業所は、併設の地域交流ホームで、地元老人会の誕生会やボランティアグループによる折り紙クラブなどを開催し、交流を深めている。また、地域の小学校の運動会に参加したり、小学生が事業所に来訪してくれたりして、双方向に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行い、高齢者を抱える家族や高齢者に困った事がないか聞き取りを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、民生委員・市職員に参加していただき、事業実施状況や行事報告等を行っている。また、参加者からの要望や提案については十分に話し合い、サービスの質の向上に繋げている。	事業所は2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。会議には、利用者家族や老人会の参加もあり、事業所の取り組みを報告するほか、感染症対策等について話しあっている。出された意見や要望を現場職員へも伝え、サービスの質の向上へ繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年2回介護相談員の報告会に市職員も交え連携を深めている。また、運営推進会議にも参加していただき、事業所の情報や実情・取り組みについて報告している。	事業所では、年2回、介護相談員の受け入れを実施しており、相互に意見交換を行っている。事業所内の会議にも行政担当者の参加があり、連携を深めている。また、行政側から各種研修会の案内等、情報提供もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で開催している研修会に全職員が参加し、利用者の抱える身体・精神的な病気を理解できるよう努めている。現在身体拘束の必要な入居者はいない。	管理者を含む全職員は、身体拘束をしないケアについて、法人の開催する研修会に参加し、理解を深めている。事業所は、併設施設と玄関が共用となっており、夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修会を開催し、虐待について学習している。また、テレビ・新聞等で報道があった際にはその都度朝礼等で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の開催や外部研修へ参加し、生活自立支援事業や成年後見人制度の必要な入居者がいれば活用できる態勢を整えている。また、家族からの相談にのり利用者の人権を尊重したサービスを提供できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず重要事項説明書を十分に説明し、疑問点等ないか確認を行っている。疑問点があれば、理解・納得していただくまで説明し、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来苑時には気軽に話せる雰囲気作りを努めている。また意見箱の設置により直接言えない場合に対応できるよう配慮している。出された意見は迅速に検討・対応し、運営に反映している。	事業所は、併設施設と合同の家族会を年3回開催し、半数以上の家族の参加がある。職員は、利用者や家族からの意見を積極的に聞き、ケアの実践へ反映させている。また、意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員面接を実施し、意見や提案を聞き取る機会を設け、運営に反映している。	事業所は、全職員へ年2回の職員面接を行っているが、直属の上司ではなく、他部署の上司が面接するなど、意見を言いやすい配慮を行っている。また、月1回の全体会議やワーカー会議でも、職員の日ごろのケアでの気づきや提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表等を活用し、一定レベルにある職員の面接を行い、正規職員に採用している。また全職員が自己点検シートを活用し、管理部と共に評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で全職員を対象とした研修の年間計画を作成し、実施している。外部研修にも勤続年数等の段階に応じて参加している。参加後には復命書を作成し、報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加し、同一サービス事業者とのネットワークづくりに努めている。また、同法人ではあるが、県外事業部との交換研修を積極的に行い、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	花		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人宅等を訪問し、困っている事や要望の聞き取りを行っている。また、定期的に声掛けを行い、相談などがなければ聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず家族と面会し、不安な事や要望を聞き出している。また来苑時には声掛けを行い、相談などがなければ聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受けた際に状態を見極め、他サービス担当者と相談しながら必要なサービスに繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除方法など家事について利用者の経験を活かしたアドバイスをもらうなど、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに利用者の状況を報告し、その都度状況に応じて家族と職員が共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況や入居後の状態を把握し、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	事業所は、利用者の行きつけの美容院やかかりつけ医等の利用継続を支援している。またドライブでは、利用者の自宅や馴染みの場所へも出かけたりにして、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業する時間や仲の良い利用者同士で過ごせる時間をつくって交流が図れるよう支援している。利用者の状況を把握し、トラブルの原因や他の利用者との関係性に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院にお見舞いに伺っている。他事業所へ移った方にも連絡をとり、継続した関わりをもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの状態や生活歴、希望などを把握し、話し合いながらサービスを提供している。	職員は、アセスメントから利用者一人ひとりの生活歴、思いや暮らしぶりの希望の把握に努めている。事業所は、本人の希望するガーデニングを事業所内でも行えるよう支援したり、一人ひとりの役割や楽しみごとを作り出せるよう働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に本人や家族、担当ケアマネージャー等から生活歴を聞き取り、入居以前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表を活用し、利用者の現状を把握している。また定期的に再アセスメントをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から希望や要望を聞き取り、介護計画を作成している。多職種の職員で会議を行い、様々な面から計画を立てている。	事業所は、担当者会議において、利用者、家族は勿論、多職種(介護職、介護支援専門員、看護師、栄養士)の参加で、現状の利用者に合わせた介護計画を作成している。利用者の入退院後や状態の変化のある場合は、柔軟に計画変更を行いながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、職員間で情報を共有しプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り一人ひとりの希望に沿った支援ができるよう努めている。聞き取りを行い、利用者の趣向に合ったサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店を利用したり、これまでのかかりつけ医での受診を支援している。近隣の地域資源の把握をし、協働して支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人や家族からかかりつけ医や希望する医療機関を聞き、納得の得られた医療機関を継続して受診できるようにしている。また、かかりつけ医には些細な事でも相談や報告をするよう努めている。	事業所は、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、受診にあたっては、家族との協力体制もできており、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子を観察し、変化がある方の状態を常に看護師へ報告するようにしている。また、看護師を通じてかかりつけ医に報告や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には職員が定期的に様子を伺いに行き、医師や看護師より状態等の報告をいただいている。早期退院に向け、家族とも話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望や要望、主治医の意見、事業所のできる事を十分に話し合い、方針を決め共有している。	事業所は、契約時に重度化や終末期の対応について、本人と家族に書面で説明を行っている。やむを得ず、重度化に至った場合は、併設施設とも連携した支援体制がある。また、ターミナルケアについては、職員研修会を年1回実施し、学習や話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で研修会を開催し、急変時や事故発生時の対応について学習している。マニュアルを作成し、研修を通じて実践できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に勉強会と事業所内研修を行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し、地域住民や老人会の方の協力を得ている。消防署や警察署とも連携を図っている。	事業所は併設施設と合同で、年2回昼・夜を想定した避難訓練を行っている。事業所の緊急時連絡網には、近隣住民や老人会のメンバーも含まれており、地域との協力体制が整っている。	

自己	外部	項目	花		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は利用者に対して人格の尊厳に配慮した丁寧な言葉遣いを心掛けている。	全職員は、プライバシーや倫理に関する研修会に年1回参加し、正しい理解に努めている。また、毎朝の朝礼でも具体的な対応について話しあい、周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話から希望や要望を表しやすい雰囲気作りに努め、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理やレクリエーション等に参加したい方やゆっくりと静かに過ごしたい方など利用者一人ひとりの希望やペースに沿った過ごし方で支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、整髪についても希望する馴染みの理美容院へ行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考慮し、残存機能を活かしながら職員と一緒に準備や片付けをしている。	事業所は、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、残存能力にあわせた役割分担を行っている。利用者と職員は、一緒におやつ作りを楽しんだり、月に1度は外出に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の少ない場合には補助食品を提供するなどの対応をしている。また、咀嚼レベルに応じて食事を工夫している。併設事業所の栄養士からもアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施を習慣にしている。声掛けを行い、磨いてもらった後で職員が確認している。必要に応じて本人や家族に説明し、歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導などを行っている。トイレでの排泄を基本とし、自立に向けた支援を行っている。	職員は排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。できるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取のケアを心掛け、腹部マッサージや適度の運動を続け、必要に応じて個別にゼリーなどを作り、自然に排便できるように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や足浴等、利用者一人ひとりに応じた支援を行っている。入浴を拒む利用者には、声掛けや対応する職員を交代する等の工夫をしている。	入浴は、利用者の希望する曜日や時間帯に行っており、夜間の入浴希望にも対応可能な体制を整備している。また、入浴を拒む利用者には、対応を工夫し気分転換を図ることで、清潔保持へ繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、散歩や家事等の日中の活動を促して、本人に合わせたリズム作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的を理解し、正しく服薬できるように支援している。服薬により変化があった場合には医師や家族に連絡を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の生活から利用者一人ひとりの楽しみや役割りを見だし、得意な分野で活躍できる場面作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食などで外出を定期的実施している。利用者それぞれの希望に沿った外出ができるように家族に協力を促している。	事業所は、近所の畑で季節の野菜を栽培しており、利用者は、畑へ出かけ近隣住民との交流を楽しんでいる。また、月1回の外食支援や一人ひとりの希望にそった外出を家族とともに支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物会では、なるべく自分で支払えるように見守りながら支援している。事業所で金銭管理を行っている方には、個別の出納簿に記帳して、定期的に家族に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携を図りながら、手紙を預かったり電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に応じて照明に工夫をしている。嫌な音で不快な思いをしていないかなど、随時利用者に聞く等して対応している。利用者の表情を見ながら音のトーンを調整し、ストレスを感じさせないよう配慮している。	事業所は、2つのユニットが対面しており、利用者は自由に行き来できる造りになっている。また、中央の事務所からは2つのユニットが見渡せ、安全に配慮している。事業所3階の大きな窓からは、レンコン畑が見渡せ、解放感のある空間となっている。ホールや廊下には、季節の飾り付けや趣味の盆栽等が置かれ、居心地よく過ごせる環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前の共用空間には、造り付けのベンチやゆっくり座ってくつろげるソファを設置し、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、使い慣れた品を本人と家族と一緒に選んでもらい持ち込んでいる。また、個性のある居室づくりに利用者と共に取り組み、一緒に作品を飾り付けている。	利用者の居室には、ベッドやクローゼット、エアコン、ケーブルテレビが備え付けられている。事業所は、家族と相談し、馴染みの家具等を持ち込んでもらい、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に応じできる事はしてもらいながら、必要に応じてサポートし、残存機能の維持に努めている。居室の入り口には手作りの表札を設置し、トイレ等も分かりやすいよう表示している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			月	月	月
			実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他、グループホームおおつ独自の理念を掲げ、毎日申し送り時に唱和し、職員全員で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物会や散髪等は地元の店を利用し、地域との関わりを持つ機会を設けている。また地元の小学校等の行事に招待、また来苑されたりし、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報活動を行い、高齢者を抱える家族や高齢者に困った事がないか聞き取りを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、民生委員・市職員に参加していただき、事業実施状況や行事報告等を行っている。また、参加者からの要望や提案については十分に話し合い、サービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年2回介護相談員の報告会に市職員も交え、連携を深めている。また、運営推進会議にも参加していただき、事業所の情報や実情・取り組みについて報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で開催している研修会に全職員が参加し、利用者の抱える身体・精神的な病気を理解できるよう努めている。現在身体拘束の必要な入居者はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修会を開催し、虐待について学習している。また、テレビ・新聞等で報道があった際にはその都度朝礼等で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の開催や外部研修へ参加し、生活自立支援事業や成年後見人制度の必要な入居者がいれば活用できる態勢を整えている。また、家族からの相談にのり利用者の人権を尊重したサービスを提供できるよう努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず重要事項説明書を十分に説明し、疑問点等ないか確認を行っている。疑問点があれば、理解・納得していただくまで説明し、契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来苑時には気軽に話せる雰囲気作りに努めている。また意見箱の設置により直接言えない場合に対応できるよう配慮している。出された意見は迅速に検討・対応し、運営に反映している。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員面接を実施し、意見や提案を聞き取る機会を設け、運営に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表を活用し、一定レベルにある職員の面接を行い、正規職員に採用している。また全職員が自己点検シートを活用し、管理部と共に評価を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で全職員を対象とした研修の年間計画を作成し、実施している。外部研修にも勤続年数等の段階に応じて参加している。参加後には復命書を作成し、報告を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加し、同一サービス事業者とのネットワークづくりに努めている。また、同法人ではあるが、県外事業部との交換研修を積極的に行い、意見交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人宅等を訪問し、困っている事や要望の聞き取りを行っている。また、定期的に声掛けを行い、相談などないか聞き取りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず家族と面会し、不安な事や要望を聞き出している。また来苑時には声掛けを行い、相談などないか聞き取りを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受けた際に状態を見極め、他サービス担当者と相談しながら必要なサービスに繋がられるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除方法など家事について利用者の経験を活かしたアドバイスをもらうなど、共に支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに利用者の状況を報告し、その都度状況に応じて家族と職員が共に支えていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況や入居後の状態を把握して馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業する時間や仲の良い利用者同士で過ごせる時間をつくり、交流が図れるよう支援している。利用者の状況を把握し、トラブルの原因や他の利用者との関係性に配慮しながら支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			月 実践状況	月 実践状況	月 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院にお見舞いに伺っている。他事業所へ移った方にも連絡をとり、継続した関わりをもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの状態や生活歴、希望などを把握し、話し合いながらサービスを提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に本人や家族、担当ケアマネージャー等から生活歴を聞き取り、入居以前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表を活用し、利用者の現状を把握している。また定期的に再アセスメントをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から希望や要望を聞き取り、介護計画を作成している。多職種の職員で会議を行い、様々な面から計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、職員間で情報を共有し、プランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り一人ひとりの希望に沿った支援ができるよう努めている。聞き取りを行い、利用者の趣向に合ったサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			月	月	月
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店を利用したり、これまでのかかりつけ医での受診を支援している。近隣の地域資源の把握をし、協働して支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人や家族からかかりつけ医や希望する医療機関を聞き、納得の得られた医療機関を継続して受診できるようにしている。また、かかりつけ医は些細な事でも相談や報告をするよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子を観察し、変化がある方の状態を常に看護師へ報告するようにしている。また、看護師を通じてかかりつけ医に報告や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には職員が定期的の様子を伺いに行き、医師や看護師より状態等の報告をいただいている。早期退院に向け、家族とも話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望や要望、主治医の意見、事業所のできる事を十分に話し合い、方針を決め共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で研修会を開催し、急変時や事故発生時の対応について学習している。マニュアルを作成し、研修を通じて実践できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に勉強会と事業所内研修を行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し、地域住民や老人会の方の協力を得ている。消防署や警察署とも連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は利用者に対して人格の尊厳に配慮した丁寧な言葉遣いを心掛けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話から希望や要望を表しやすい雰囲気作りに努め、自己決定ができるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理やレクリエーション等に参加したい方やゆっくりと静かに過ごしたい方など利用者一人ひとりの希望やペースに沿った過ごし方で支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、整髪についても希望する馴染みの理美容院へ行けるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考慮し、残存機能を活かしながら職員と一緒に準備や片付けをしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、摂取量の少ない場合には補助食品を提供するなどの対応をしている。また、咀嚼レベルに応じて食事を工夫している。併設事業所の栄養士からもアドバイスを受けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施を習慣にしている。声掛けを行い、磨いてもらった後で職員が確認している。必要に応じて本人や家族に説明し、歯科受診をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導などを行っている。トイレでの排泄を基本とし、自立に向けた支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取のケアを心掛け、腹部マッサージや適度の運動を続け、必要に応じて個別にゼリーなどを作り、自然に排便できるように配慮している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や足浴等、利用者一人ひとりに応じた支援を行っている。入浴を拒む利用者には、声掛けや対応する職員を交代する等の工夫をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、散歩や家事等の日中の活動を促して、本人に合わせてリズム作りをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的を理解し、正しく服用できるように支援している。服薬により変化があった場合には医師や家族に連絡を取っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の生活から利用者一人ひとりの楽しみや役割りを見だし、得意な分野で活躍できる場面作りをしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食などで外出を定期的実施している。利用者それぞれの希望に沿った外出ができるように家族に協力を促している。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物会では、なるべく自分で支払えるように見守りながら支援している。事業所で金銭管理を行っている方には、個別の出納帳に記帳して、定期的に家族に確認していただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携を図りながら、手紙を預かったり電話をかけられるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に応じて照明に工夫をしている。嫌な音で不快な思いをしていないかなど、随時利用者に聞く等して対応している。利用者の表情を見ながら音のトーンを調整し、ストレスを感じさせないよう配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先の共有空間には、造り付けのベンチやゆっくり座ってくつろげるソファを設置し、一人で過ごしたり気の合う利用者同士で過ごせる空間がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、使い慣れた品を本人と家族と一緒に選んでもらい持ち込んでいる。また、個性のある居室づくりに利用者と共に取り組み、一緒に作品を飾り付けている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に応じてできる事はしてもらいながら、必要に応じてサポートし、残存機能の維持に努めている。居室の入り口には手作りの表札を設置し、トイレ等も分かりやすいよう表示している。			